

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F133110109503	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	岡山大学	設置区分	国立	事業計画名	岡山大学 6 年一貫高度情報人材育成プログラム
学校種	大学	都道府県	岡山県		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】<修士>139人、<学士>190人 大学院環境生命自然科学研究科環境生命自然科学専攻（数理情報科学学位プログラム）入学定員139人 工学部工学科（情報・電気・数理データサイエンス系）入学定員190人 6月 工学部工学科 収容定員に係る学則変更届出予定	【情報系組織の入学定員】<修士>139人、<学士>190人 大学院環境生命自然科学研究科環境生命自然科学専攻（数理情報科学学位プログラム）入学定員139人 工学部工学科（情報・電気・数理データサイエンス系）入学定員190人 6月 工学部工学科 収容定員に係る学則変更届出	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 5月～8月 プログラミングコンテスト参加学生（情報工学コース）の指導 ② 6月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ③ 8月～10月 教員採用活動（公募内容の検討、公募、面接等） ④ 8月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討 ⑤ 8月～3月 教育用PCの仕様策定・導入 ⑥ 8月～3月 新規採用予定教員の居室・研究室、学生実習室の整備 ⑦ 8月～ プログラミング演習室の整備（初年度）	① 5月～8月 プログラミングコンテスト参加学生（情報工学コース）の指導 ② 6月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ③ 8月～10月 教員採用活動（公募内容の検討、公募、面接等） ④ 8月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討 ⑤ 8月～3月 教育用PCの仕様策定・導入 ⑥ 8月～3月 新規採用予定教員の居室・研究室、学生実習室の整備 ⑦ 8月～ プログラミング演習室の整備（初年度）		
令和6年度	【情報系組織の入学定員】<修士>139人、<学士>230人 4月 工学部工学科情報工学先進コース設置予定（入学定員40人）	【情報系組織の入学定員】<修士>139人、<学士>230人 4月 工学部工学科情報工学先進コース設置（入学定員40人）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 4月～7月 プログラミング演習室の整備（2年目） ② 4月～9月 教員研究室の整備 ③ 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ④ 4月～3月 教員採用活動 ⑤ 4月～8月 プログラミングコンテスト参加学生（情報工学コース）の指導 ⑥ 4月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討 ⑦ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加）	① 4月～7月 プログラミング演習室の整備（2年目） ② 4月～9月 教員研究室の整備 ③ 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ④ 4月～3月 教員採用活動 ⑤ 4月～8月 プログラミングコンテスト参加学生（情報工学コース）の指導 ⑥ 4月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討 ⑦ 6月～8月 海外の交流協定締結大学の学生との共同プロジェクトの実施		
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<修士>139人、<学士>230人 ① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑤ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討		R7年度自己評価	リストから選択してください。
令和8年度	【情報系組織の入学定員】<修士>139人、<学士>230人 ① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑤ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討		R8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<修士>139人、<学士>230人 ① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 7月～9月 教育用計算機システムの仕様策定 ⑤ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑥ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討		R9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	【情報系組織の入学定員】<修士>179人、<学士>230人 4月 大学院環境生命自然科学研究科環境生命自然科学専攻（修士課程）40人増員予定（入学定員179人）		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑤ 9月 教育用計算機システムの導入・動作確認 ⑥ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討			
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<修士>179人、<学士>230人 ① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑤ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討		R11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度	【情報系組織の入学定員】<修士>179人、<学士>230人 ① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑤ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討		R12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<修士>179人、<学士>230人 ① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑤ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討		R13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度	【情報系組織の入学定員】<修士>179人、<学士>230人 ① 4月～12月 広報活動（ウェブページでの周知、高校・高専訪問等） ② 5月～9月「実践プログラミング」の開講 ③ 5月～12月「高度実践プログラミング」の開講 ④ 9月 海外の交流協定締結大学への学生派遣（学生ワークショップ参加） ⑤ 1月～3月「実践プログラミング」と「高度実践プログラミング」の内容検討		R14年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	岡山大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table><tr><td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで到他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>認定を受ける計画が進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	岡山大学
-------------	-------	-----	------

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	
	☒ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学は、岡山県の「大学と連携した地域産業振興事業」の一環として令和2年に設立された「おかやまAI・セキュリティ共創コンソーシアム（OASIS）」の幹事校を務めている。このコンソーシアムの目的は、AI・IoT・セキュリティ関連分野で共同研究を目指す企業と大学研究者などが集い、多面的な連携による共同研究の促進を図ることである。令和5年3月末時点の会員は地元企業35社、大学4校、高専1校、自治体等3団体であり、担当教員の中にはOASISの会員企業と共同研究を行っている者もいる。工学部情報工学先進コースに配置する科目「実践プログラミング」や、大学院計算機科学コースに配置する科目「高度実践プログラミング」においては、OASISの活動を通して構築された岡山大学・自治体・地元企業のネットワークを生かし、課題設定やプログラミングコンテストの学内審査を地元企業や自治体と連携して行う。また、大学院のインターンシップ科目においても、地元企業と連携して派遣学生の教育・活動支援・評価を行う。	「おかやまAI・セキュリティ共創コンソーシアム（OASIS）」の会員企業（令和6年3月末時点で45社）および一般社団法人システムエンジニアリング岡山（コンピュータ利用技術の向上及び発展を図り、情報化の促進、生産技術の向上・革新・振興を通じて地域・経済社会に貢献することを目指して活動する地域情報産業団体）の会員企業（令和6年3月末時点で86社）を対象に、情報工学先進コースの教育内容を紹介して意見を求めるアンケート調査を実施し、多くの企業から期待する教育プログラムであるとの回答を得た。また、岡山情報通信技術研究会（情報通信技術の基盤や利用に関する意見交換を行う産官学の研究会）の第51回研究会（令和5年10月17日開催）とOASIS情報交換会（令和5年11月6日開催）において情報工学先進コースの紹介を行い、自治体や企業の参加者と「実践プログラミング」や「高度実践プログラミング」の内容に関する意見交換を行った。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学では、令和4年8月に岡山県教育委員会との協働事業として、正課外活動を通じて高校生や大学生がともに夢を育み、主体的に学ぶ場を提供する「おかやま夢育イニシアチブ」を立ち上げている。この取り組みの中には学生等の正課外活動の一環であるデータサイエンス（DS）部の学生と高校生が協働して行うワークショップもあり、昨年度は2回開催され、令和5年度以降も継続の予定である。DS部は岡山大学グリーンイノベーションセンターのグリーンbyデジタル部門とも連携して公開講座や小中学校での出前授業も行っており、いずれも好評を博している。こうしたノウハウも活用し、学生の実践力を養うとともに、初等中等教育段階の児童・生徒のITリテラシーの向上や理数系分野への進路に対する興味・関心の涵養にも貢献できると考えている。	「おかやま夢育イニシアチブ」の第3回イベント「岡山県産SDGsを発掘せよ！」（主催：岡山大学・岡山県教育委員会、運営：岡山大学DS部）を令和5年8月2～3日に開催し、第4回イベント「スマホを使って何をする？at開発途上国」（主催運営ともに第3回と同じ）を令和6年3月16日に開催した。高校生の参加者は第3回が31名、第4回が21名であった。また、岡山大学公開講座「ーから学ぶコンピュータと情報の科学」を令和5年8月7日に開催し、7名の中学生と18名の高校生を含む74名の受講者に対し、コンピュータと情報に関する4つの話題（アルゴリズム、情報セキュリティ、ハードウェア、人工知能）を提供した。さらに、情報系の教員が岡山県立岡山芳泉高校、岡山県立岡山城東高校、岡山県立津山高校、広島市立基町高校を訪問し、岡山大学における情報工学分野の研究紹介と情報工学先進コースの紹介を行った。その結果、訪問した教員が令和6年度から広島市立基町高校の課題探究活動のアドバイザーを務めることになった。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学工学部では、「大学院生によるロールモデル紹介を通じた高大連携事業」を行っている。工学部出身の優れた大学院生を出身高校に派遣し、高校1,2年生に向けて大学生活や研究活動に関する話をしてもらうとともに、岡山大学工学部の紹介を行っている。この事業を活用し、情報工学を学ぶ優れた女子学生を情報工学先進コースの担当教員とともに出身高校に派遣し、情報工学の魅力を伝える取組を行う。また、優秀な留学生を大学院に呼び込むための戦略として、交流協定締結大学、海外事務所、国際同窓会を活用する。例えば、タイのカセサート大学から学部生をインターンシップで毎年数名受け入れてきた。そのうちの一人は岡山大学の博士前期課程に入学し、現在は博士後期課程に在籍している。このような優秀な学生が継続的に入学するようにカセサート大学との良好な関係を強化する。なお、令和5年度は2名の学生を受け入れる予定である。他の交流協定締結大学についても同様の取組を行い、優秀な留学生の確保を図る。	「大学院生によるロールモデル紹介を通じた高大連携事業」として、岡山県内7校、広島県内2校、京都府内1校、兵庫県内1校、香川県内1校の計12の高校に大学院生または学部4年生を派遣し、学生自身による大学生活のプレゼンテーションと引率教員による工学部の紹介（情報工学先進コースの説明を含む）を行った。派遣学生12名のうち女子学生は5名であった。高校生の参加者は12校合わせて375名であり、そのうち約110名の女子生徒の参加があった。また、岡山大学工学部において高校生向けの研究室見学会を5月から9月にかけて4回開催し、女子学生の確保に向けた取組として、研究室見学会における女子学生による説明、工学部女子学生による大学生生活紹介、情報工学先進コースの紹介および質疑応答を実施した。4回の研究室見学会の参加者は延べ330名であり、そのうち女子生徒は延べ91名であった。留学生の確保に向けた取組としては、大学間交流協定を結んでいるタイのカセサート大学から学部生をインターンシップで2名を受け入れ、情報系の研究室で日本人学生と協働でプロジェクトに取り組んでもらった。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学は、フランスのソルボンヌ大学やグローバル工科大学、タイのカセサート大学、中国の東北大学等の海外の交流協定締結大学と緊密に連携し、情報系学生の派遣と受入を行っている。大学院の計算機科学コースに新たに配置する「高度実践プログラミング」においては、岡山大学の学生だけでなく、交流協定締結大学から受け入れる学生もチームに加え、プログラミングコンテストや社会課題解決に取り組む。「実践学術表現」においても、岡山大学の学生が交流協定締結大学から受け入れる学生と連携して研究プロジェクトを推進し、その成果を英語論文にまとめる。「インターンシップ」や「海外学修」においては、計算機科学コースの学生を海外の交流協定締結大学に派遣し、現地での活動によって単位認定を行う。また、岡山大学は「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPIT)」のセキュリティ分野に参加し、現在も他大学と連携しながら自主展開を行っている。情報工学先進コースにおいても、PBL演習科目の改善を図り他大学との連携をさらに強化する。	岡山大学が大学間交流協定を締結している海外の大学から情報系学生を特別研究学生または特別聴講学生として2～3か月受け入れ、日本人学生と協働で研究室のプロジェクトに参加してもらう取組を行った。令和5年度の受入実績は、ソルボンヌ大学（フランス）から2名、グローバル工科大学（フランス）から8名、、ポアティエ大学（フランス）から1名、バリエ＝サクレー大学（フランス）から1名、カセサート大学（タイ）から2名、チャンガ大学（タイ）から9名、ロードアイランド大学（アメリカ）から2名であった。国際的に通用する高度情報専門人材を育成する上で海外の優れた学生との研究交流は極めて重要であり、今後もこの取組を続ける予定である。学生の海外大学への派遣については、令和5年度は実施できなかったものの、情報工学先進コースの学生が研究室に配属される令和9年度以降の実施に向けて検討を行った。enPITセキュリティ分野における他大学の連携については、令和5年度に岡山大学の学生のべ22名が北海道大学、東北大学、北陸先端科学技術大学、東京電機大学、慶応義塾大学、京都大学の開講科目の単位を修得し、北海道大学、東北大学、京都大学、九州工業大学、北九州市立大学、一関高専、高知高専の学生のべ35名が岡山大学の開講科目の単位を修得した。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岡山大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table><tr><td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで到他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>認定を受ける計画が進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	岡山大学
-------------	-------	-----	------

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	
	■ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学は、岡山県の「大学と連携した地域産業振興事業」の一環として令和2年に設立された「おかやまAI・セキュアIoT共創コンソーシアム（OASIS）」の幹事校を務めている。このコンソーシアムの目的は、AI・IoT・セキュリティ関連分野で共同研究を目指す企業と大学研究者などが集い、多面的な連携による共同研究の促進を図ることである。令和5年3月末時点の会員は地元企業35社、大学4校、高専1校、自治体等3団体であり、担当教員の中にはOASISの会員企業と共同研究を行っている者もいる。工学部情報工学先進コースに配置する科目「実践プログラミング」や、大学院計算機科学コースに配置する科目「高度実践プログラミング」においては、OASISの活動を通して構築された岡山大学・自治体・地元企業のネットワークを生かし、課題設定やプログラミングコンテストの学内審査を地元企業や自治体と連携して行う。また、大学院のインターンシップ科目においても、地元企業と連携して派遣学生の教育・活動支援・評価を行う。	情報工学先進コースの担当教員が主催し、「おかやまAI・セキュアIoT共創コンソーシアム(OASIS)」「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)」(産学官が連携して主にデジタル技術を活用したイノベーションを創出することを目的として令和6年に設立された組織)「おかやまIoT推進ラボ協議会」が共催として関わった第13回岡山大学AI研究会(令和6年12月11日開催)に、情報工学先進コース1年生全員が参加して、人工知能に関する最新の研究動向を学んだ。OI-Startには情報工学先進コースの担当教員複数名が役員として参加しており、大学院の「高度実践プログラミング」の内容について、自治体や企業の会員と継続的に意見交換を行っている。 また、「岡山情報通信技術研究会」(情報通信技術の基盤や利用に関する意見交換を行う産官学の研究会)の第56回研究会において、情報工学コースで先行的に実施している「実践プログラミング」の活動内容を紹介し、この科目や大学院の「高度実践プログラミング」の内容について、自治体や企業の参加者と活発な意見交換を行った。	

- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学では、令和4年8月に岡山県教育委員会との協働事業として、正課外活動を通じて高校生や大学生がともに夢を育み、主体的に学ぶ場を提供する「おかやま夢育イニシアチブ」を立ち上げている。この取り組みの中には学生等の正課外活動の一環であるデータサイエンス（DS）部の学生と高校生が協働して行うワークショップもあり、昨年度は2回開催され、令和5年度以降も継続の予定である。DS部は岡山大学グリーンイノベーションセンターのグリーンbyデジタル部門とも連携して公開講座や小中学校での出前授業も行っており、いずれも好評を博している。こうしたノウハウも活用し、学生の実践力を養うとともに、初等中等教育段階の児童・生徒のITリテラシーの向上や理数系分野への進路に対する興味・関心の涵養にも貢献できると考えている。	「おかやま夢育イニシアチブ」の第5回イベント「瀬戸内海の未来へ届け！～高校生が考えるビジネスアイデア～」(主催：岡山大学・岡山県教育委員会、運営：岡山大学DS部)を令和6年8月7日に開催し、第6回イベント「どんな仲間と学びたい？自分発掘ワークショップ～自分自身の可能性を探る～」(主催運営ともに第5回と同じ)を令和7年3月15・16日に開催した。高校生の参加者は第5回が17名、第6回がのべ26名であった。 また、情報系の教員が愛媛県立松山西中等教育学校の生徒にオンラインで岡山大学における情報工学分野の研究紹介と情報工学先進コースの紹介を行った。 さらに、岡山県立倉敷南高校および広島市立基町高校の課題探究活動のアドバイザーを務めた他、倉敷青陵高校での講演および課題探究活動への助言を行った。	

- ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学工学部では、「大学院生によるロールモデル紹介を通じた高大連携事業」を行っている。工学部出身の優れた大学院生を出身高校に派遣し、高校1,2年生に向けて大学生活や研究活動に関する話をしてもらうとともに、岡山大学工学部の紹介を行っている。この事業を活用し、情報工学を学ぶ優れた女子学生を情報工学先進コースの担当教員とともに出身高校に派遣し、情報工学の魅力を伝える取組を行う。また、優秀な留学生を大学院に呼び込むための戦略として、交流協定締結大学、海外事務所、国際同窓会を活用する。例えば、タイのカセサート大学から学部生をインターンシップで毎年数名受け入れてきた。そのうちの一人は岡山大学の博士前期課程に入学し、現在は博士後期課程に在籍している。このような優秀な学生が継続的に入学するようにカセサート大学との良好な関係を強化する。なお、令和5年度は2名の学生を受け入れる予定である。他の交流協定締結大学についても同様の取組を行い、優秀な留学生の確保を図る。	「大学院生によるロールモデル紹介を通じた高大連携事業」として、岡山県内9校、広島県内2校、京都府内1校、兵庫県内1校、香川県内1校、愛媛県内1校の計15の高校に大学院生または学部4年生を派遣し、学生自身による大学生生活のプレゼンテーションと引率教員による工学部の紹介（情報工学先進コースの説明を含む）を行った。派遣学生15名のうち女子学生は3名であった。高校生の参加者は15校合わせて500名であり、そのうち186名以上の女子生徒の参加があった。 また、岡山大学工学部において高校生向けの研究室見学会を6月から9月にかけて4回開催し、工学部女子学生を含めた学部紹介、情報工学コースの紹介、進路相談を行い、参加者はのべ163名であった。さらに、この4回の研究室見学会の内1回は、女子高校生向け座談会および研究室見学会とし、工学部女子学生や工学部女性教員からの説明、意見交換会とし、女子高校生に向けた工学部の魅力を紹介する機会とした。女子高校生の参加者は全回で約120名であった。 留学生の確保に向けた取組としては、大学間交流協定を結んでいるタイのカセサート大学から学部生4名をインターンシップで受け入れ、情報系の研究室で日本人学生と協働でプロジェクトに取り組んでもらった。	

- ④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
岡山大学は、フランスのソルボンヌ大学やグローバル工科大学、タイのカセサート大学、中国の東北大学等の海外の交流協定締結大学と緊密に連携し、情報系学生の派遣と受入を行っている。大学院の計算機科学コースに新たに配置する「高度実践プログラミング」においては、岡山大学の学生だけでなく、交流協定締結大学から受け入れる学生もチームに加え、プログラミングコンテストや社会課題解決に取り組む。「実践学術表現」においても、岡山大学の学生が交流協定締結大学から受け入れる学生と連携して研究プロジェクトを推進し、その成果を英語論文にまとめる。「インターンシップ」や「海外学修」においては、計算機科学コースの学生を海外の交流協定締結大学に派遣し、現地での活動によって単位認定を行う。また、岡山大学は「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPIT)」のセキュリティ分野に参加し、現在も他大学と連携しながら自主展開を行っている。情報工学先進コースにおいても、PBL演習科目の改善を図り他大学との連携をさらに強化する。	岡山大学が大学間交流協定を締結している海外の大学から情報系学生を特別研究学生または特別聴講学生として2～3か月受け入れ、日本人学生と協働で研究室のプロジェクトに参加してもらった取組を行った。令和6年度の情報系研究室の受入実績は、ソルボンヌ大学（フランス）から4名、グローバル工科大学（フランス）から2名、サントラル・シュベック大学（パリ＝サクレ＝大学加盟校）（フランス）から1名、カセサート大学（タイ）から4名、ロードアイランド大学（アメリカ）から2名であった。国際的に通用する高度情報専門人材を育成する上で海外の優れた学生との研究交流は極めて重要であり、今後もこの取組を続ける予定である。学生の海外大学への派遣については、令和6年度は実施できなかったものの、情報工学先進コースの学生が研究室に配属される令和9年度以降の実施に向けて検討を行った。enPITセキュリティ分野における他大学の連携については、令和6年度に岡山大学の学生のべ14名が東北大学、慶応義塾大学、大阪大学の開講科目の単位を修得し、東北大学、和歌山大学、九州工業大学、北九州市立大学、岡山県立大学、高知高専の学生のべ25名が岡山大学の開講科目の単位を修得した。	

大学名	岡山大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

1.本事業対象となる情報系組織の状況

1-3. 学士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	工学部工学科情報工学先進コース
-------	-----------------

[illegible]

大学名	岡山大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3－3.学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	2,192	2,222	2,220																
		入学者数	人	2,295	2,301	2,299																
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	25	27																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	2,192	2,222	2,220	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	2,320	2,328	2,299	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.06	1.05	1.04																
	収容定員等	収容定員(C)	人	9,347	9,374	9,399																
		編入学定員	人	70	70	70																
		在籍者数(D)	人	10,121	10,140	10,246																
		編入学者数	人	83	82	77																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.08	1.08	1.09																

4.外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	7,981,431	12,018,875																	

特記事項

1. 本事業対象となる情報系組織の状況及び2. 情報系組織の状況 の博士課程及び修士課程について、R5年度～R7年度のその他の学期の入学定員0人とは、若干名を意味している。 また、博士課程及び修士課程については、情報系組織単独での入学定員数等を設定していないため、当該情報系組織を含む、学位プログラム単位の人数を記載している。 2－3. 学士課程 の編入学定員は、工学部全体で30人としており、系ごとの定員は設けていないため、0としている。 3. 大学全体の状況 のその他の学期の入学定員は、春季入学の入学定員に含まれるため、0としている。
2. 情報系組織の状況 「博士課程R5収容定員」「博士課程R6収容定員」「修士課程R5収容定員」「学士課程R6春季入学留学生数」を修正した。